

令和6年度 授業改善重点プラン

令和6年8月30日
大田区立東糀谷小学校
校長 菊原 寛之

「型」を教え続け、子供たちに基礎学力を身に付けていく。本校で言う「型」とは、実際に教えて、こどもたちが良き変容をし得ると考える「型」である。その「型指導」を継続することによって、基礎学力は身につくという仮説のもとに取り組む。

1. 基礎学力の定着を図るための授業とは・・・「型」による基礎学力を身につける授業を行い続けることである。
◎「型」として、こどもたちに「モデル」や「基本形」を示し、「型」を徹底することによって、基礎学力が身につくと考ええる。
2. 「型」による「読み」の力をつける授業

「国語の授業改善」文章を厳密に検討させる(説明と描写を区別して読ませる)国語の授業では、文学的文章の指導・説明的文章の指導→文章を厳密に検討させることが大前提である。

物語文指導

物語文を授業する上で、音読10回以上と意味調べを行うことを前提とする。物語文の授業の型を3つに分ける。それぞれ教材に応じて使い分ける。

①全体構造分析型A ②全体構造分析型B ③発問型の3つのパターン。

国語の授業1時間のパターンは次のように行う。

① 話す・聞くスキル (5分) ②漢字指導 (5分) ③音読 (10分) ④教科書の問題 (発問→意見を書く→発表→話し合い) (20分) ⑤授業の感想を書く (5分)

年間同じパターンでいくとこどもは何ををしているのかわかり授業が安定する。そのなかでも④の教科書を使つての授業が安定させる必要がある。物語文、説明文が基本である。教材間に、言語事項なども入ってくる。単元をどのように展開していくのか考える。

1. 全体構造分析型A

- (1) 基本設定「登場人物」「場所」「時」「季節」を検討する。
(2) 事件ごとに要約教師が事件に分けておく。各事件を20字以内で要約する。(事前に要約指導を行っていることが前提となる)
(3) 起承転結 事件を起承転結に分ける
(4) モチーフ、クライマックス、ピナクルの検討 (主人公の気持ちの変化)

①中心人物の変化について「最初は〇〇だが最後は△△」となるように文を作る。②上の文を短いキーワードに直す。③図に表す。④中心人物の変化の原因を短くまとめる。変化の原因のなかにモチーフが含まれる。モチーフが変化したときがクライマックスであり、中心人物の気持ちや行動がガラッと変わったときである。

- (5) 主題の検討 モチーフの言葉を使って「人間は～」「世の中は～」という書き出しで書く。
(6) 評論文指導 ①書き出し (読んだ感想) ②ノートを見て学習した順に書く ③発問は四角囲み ④出た意見を列挙する ⑤自分の考えを書く ⑥他の子に反論する

2. 全体構造分析型B

- (1) 物語の大筋をつかむ
教師の範読の後、〇〇が△△した話の形で、物語の大筋をつかませます。ノートに1行で書かせてこどもに板書させる。
(2) 物語のすじをもう少し詳しくつかむ。
起承転結の文で書かせます。短い文でもよい。
起・・・はじめ～ 承・・・つぎに～ 転・・・ところが～ 結・・・さいごに～
このような書き出しで書かせると、書きやすい。
ここで大切なものは「転」。物語が変化するところをつかむ。
この起承転結でやっていくと主人公が誰なのか、はっきりする。
(3) 物語の全体構造を教える
物語は前半・後半では必ず主人公が変化する。ほとんどの教材で180度変化する。それは、主人公の気持ちが変わったか。主人公の考えが変わったか。主人公の様子(環境)が変わったかは、物語によって違う。
「最初は〇〇だが、最後は△△」物語文の共通した構成の型に当てはめる。
問題 → 解決
↑
助言者
(4) 討論
最後に「何が主人公の考えを変化させたのか」を話し合わせます。

3. 発問型

- (1) 音読、初めの感想、設定
①仮主題 ②初めの感想 ③いくつかの場面からできているか。④登場人物は誰か。⑤いつのお話か
(2) 場面を読み取る
1場面 ①ごんはどんなきつねか ②ごんはぬすとぎつねか ③兵十が「ぬすとぎつねめ」と叫んだあとごんがしたことを書く ④1場面のタイトルをつける
2場面 ①2場面の登場人物を書く。②話者はどこか。③ごんは誰が見たか。

説明的文章の指導 (事実とは?意見とは?)

説明的文章を読むときの足がかりをつくる。こどもたちが楽しんで取り組み、集中して考える授業を目指す。

(授業例) 黒板に、次の文を書く。

- (1) ジョージ・ワシントンはアメリカの最も偉大な大統領であった。
(2) ジョージ・ワシントンはアメリカの初代の大統領であった。

発問 . 1 2つの文を検討しなさい。事実と意見という点から検討しなさい。

発問 . 2 理由を文の中からさがしなさい。

説明 . 1 ○意見文は、原則として、私は～と考える(～と思う、想像する)などをつけること。
○「うまい」「もっとも」「一番・・・」などがあれば意見文であり、そのときは、「私は・・・」はなくてもよいこと。
○事実は後で確認できること。

指示 . 1 事実の文と意見の文を5つずつ、ノートに書きなさい。

発問 . 3 できた文を発表します。〇〇さんの作った文は、事実の文でしょうか、意見の文でしょうか。はっきりしない文についてはみんなで考えた。

指示 . 2 教科書から、事実と意見の文を見つけなさい。

指示 . 3 家でも、自分で事実の文と意見の文を書いてごらんナさい。

事実の文、意見の文を見つけるために、新聞や社会科の教科書、または、図書室の本など、教師が文章を提示し、事実の文、意見の文を見つけさせる。多くの文に出会わせ、事実と意見についてはっきりさせたい。

令和6年度 授業改善重点プラン2

令和6年8月30日
大田区立東糀谷小学校
校長 菊原 寛之

説明文教材 スラッシュ分割法の指導

文章構成の検討を促す「スラッシュを○本入れなさい」の指示を使った指導方法。全ての説明文教材で活用する。学習指導要領には、「段落相互の関係」を指導するよう明記されている。筆者の考えとそれを支える理由や事例がどのような文章構成で書かれているのか。それを考えさせるために、スラッシュ分割法の授業を行う。光村の四年生教材「動いて、考えて、また動く」の実践例。

「動いて、考えて、また動く」を始め・中・終わりに分けると次のようになる。

始め・・・ ①段落 中・・・ ②～⑦段落 終わり・・・ ⑧段落

中の部分は、どのような構成で書かれているのか。その検討を促すために、次の指示を出す。

指示． 1 ②～⑦段落を3つに分けます。スラッシュを2本、入れなさい。

ノートに②～⑦の段落番号を縦に書かせ、そこにスラッシュを2本入れさせる。

次に、こどもたちが前に出て板書する。

全て子どもたちに板書させてもよいが、字の大きさが揃っていた方が見やすいので、数字は教師が書いておき、スラッシュのみ、こどもたちに書かせる。

(例) 意見は、6通り。

A②③／④⑤／⑥⑦ B②／③④⑤⑥／⑦ C②③／④⑤⑥／⑦ D②／③④／⑤⑥⑦ E②③④／⑤⑥／⑦ F②／③④⑤／⑥⑦

正しいもの見付けさせない。次のことを問う。

発問． 1 正しくない分け方は、どれですか。

始めは正しくないものを見付ける方が、こどもたちは考えやすい。

1分程度考える時間をとった後、数分間ペアやグループで話し合わせる。

そして、全体で検討する。

(授業例) 最初に異議が唱えられたのはA。

「③段落と④段落は、ひざを高く上げる話題です。だから、切れません。」同じように、③と④を区切っているCも同時に消えることになる。

次に反対意見が出されたのはF。段落冒頭の「足の動きと同時に、うでのふりも重要です」の文。「同時に」という言葉や、助詞「も」を根拠に前の段落とのつながりが主張され、

Fが消える。再度考える時間を1分程度とり、どれがよいか指名なし発表で意見を言わせる。

「⑦に『このように』という言葉がある」「⑦は中のまとめになっている」「②～⑦も『始め・中・終わり』になっている」

意見が、Aにまとまってきた段階で、段落相互の関係についてまとめる。

②→ 工夫を始めたきっかけ ③～⑥→ 筆者の工夫の具体例 ⑦→ 工夫のまとめ

教師が②～⑦の番号を書き、こどもが前に出てきてスラッシュを入れる。

「他の分け方をした人はいますか？」 → 別の子が出て、意見を列挙していく。

全体での検討で出された意見のキーワードを、教師が黄色チョークで板書する。

スラッシュ分割法の授業は、どの学年の説明文教材でも行うことができる。説明文が論理的な構造をもっていることをつかませていく。

国語科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
「思考力, 判断力, 表現力等」	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。			
	(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
学年	項目	指導内容	育てたいスキル	言語活動例
1. 2年	構造と内容の把握	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	① 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	① 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。
3. 4年		ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	② 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由を捉えること。	② 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。
			③ 叙述を基に、考えと理由や事例との関係などについて捉えること。	③ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。
5. 6年		ア 事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。	④ 事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえること。	④ 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。
			⑤ 文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。	⑤ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
1. 2年		イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	⑥ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	⑥ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。
3. 4年		イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること	⑦ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること	⑦ 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。
5. 6年		イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	⑧ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	⑧ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。
				⑨ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

令和6年度 授業改善重点プラン3

理科授業改善

基本として「理科の授業を教科書通りすすめる」

- 1 日付と教科書のページ数をノートに書かせる。
- 2 教科書の「実験問題＝疑問文の形になっているもの」を読み、そのまま、ノートに書き写す。実験問題とは、たとえば「窒素にものを燃やすはたらきはあるのだろうか？」などのことである。
- 3 実験問題は赤枠で囲む。
- 4 「目的」をノートに書く。教科書では「〇〇を調べよう」などと書かれているもの。
このとき「〇〇を調べる」と言い切りの形にさせる。
- 5 「方法」をノートに書かせる。
教科書に書かれた実験の方法・手順をそのままノートに写す。箇条書きになっているときはきちんと番号も書かせる。
- 6 必要な用具をノートに書かせる
- 7 上の「5と6」をまとめて「実験図で書かせる」という方法もある。
このとき、実験に使う用具には必ず全部名前を書かせる。ピーカー、ろうと、など記入させる。もちろん実験手順も書き写させる。
その上で「実験図に書いてあるものは貸してあげます」「班の中に、一人でも書いてない人がいた用具は貸しません」と宣言する。こどもは書かざるを得なくなる。

★実験を行う★

- 8 実験中に「わかったこと、気付いたこと、思ったこと」を箇条書きで書かせる。
- 9 実験の結果を書かせる。
※ 結果とは「窒素の入った集気びんに火のついたろうそくを入れたら、一瞬で火が消えた」などのことである。
- 10 結論を書かせる。
結論とは「実験問題に対する端的な答え」である。例えば、上記の実験問題に対する結論は「窒素にものを燃やすはたらきは無い」である。
※「実験問題にズバリと短く答えなさい。通常は一文です」という指示で書かせる場合もある。

この基本編以外に理科教科書の効果的な使い方

- 【使い方応用編その1】 教科書に書き込みをさせる。今の教科書は「教科書に書き込みをすることで理解を助ける」ように作られているページがある。
活用するー例えば、五年の「てこのはたらき」などで、実験結果を表に書き込ませるページがある。ノートに表を作らせてもいいが、教科書に直接書き込ませると5分程度時間を短縮できる。
- 【使い方応用編その2】 写真を使う。いろんな事情で、十分観察ができない、観察に適した場所が近くにない、(時間がない)などの場合、教科書の写真は強い味方になる。
たとえば5年(「流れる水の働き」)川を観察に行かなければならないが、現実にはなかなか行けない。このとき、教科書の写真を資料として授業する。社会科の写真の読み取りと同じ。
そのような視点で理科の教科書を見てみると、5年の季節の移り変わりとか、月と星とかの単元ではとてもいい写真が掲載されていることに気付く。
- 【使い方応用編その3】 まとめ問題を授業する。教科書の単元の終わりにには、必ず「まとめ」という形で問題が書かれている。ここをきちんと授業するかどうかでテストの平均点が10～15点ぐらい違ってくる。
単元の終わりに、重要事項を「問題」という形で授業すると定着を促す効果がある。たとえば、次のような方法。
①国語の一字読解のようなスタイルで教師が問題を読み、子どもは答えだけノートに書く
②教科書会社の指導書のテスト問題をコピーして、必要な部分を切り貼りして「ミニテスト」を作る。
③「酸素にはものを燃やす働きがあるのだろうか？」という題を与えて「ミニ論文＝学習作文」を書かせる。
◎教科書を活用するというだけで、理科の授業はとても身近なものに変身する。教科書を使って、効果的で楽しい授業を目指す。

社会科授業改善

教科書を使った授業の4つの基本的な展開方法

(1) グラフ資料の扱った授業 (2) 絵や写真から入る授業 (3) 教科書通りの授業 (4) 自己学習モデル

社会科の授業で教科書を扱う割合は3割が教科書。7割が体験活動(見学、余った時間の使い方、タブレット)である。社会科は社会科学の法則性を見つけさせる。

1. グラフ資料を扱った授業

グラフを扱う場合の基本要件10

まず、は基本の3つに関して問う。

① 表題(タイトル) ②出典 ③年度

次に残りの2つである。

④縦軸 ⑤横軸

縦軸はまず、ゼロに指を置かせ下から順に読ませていく。この後、わざと、間違え単位を押さえる。最後に、グラフの傾向を押さえる。

⑥グラフの傾向(グラフは上がっているか、下がっているか)

以上をこども達に捉えさせる。

以上を押さえた上で社会科の核である、因果関係を導かせる。

グラフの変化には必ず、因果関係がある。原因と結果の関係である。社会科の目標は突き詰めていけば、「社会事象間の因果関係」を理解させること。

グラフの読み取りから、どのようなことが読み取られるのか考えさせる。

「急激に上がっている原因を教科書の中から探して、線を引いて御覧なさい。ひとつでも引けたらもっていらっしゃい」とすると、文章を見つけて持ってくる。その文にあった形がどのように変わってきたのかを箇条書きにさせる。すると、教科書の記述があいまいになっている場合がある。もしくは、教科書では説明できない場合がある。そのような教科書の曖昧さを批判することを授業する。

② 音読「小見出し」「コラム」「図」「表」だけを読む。基本、追い読みさせる。一人で本文を小さな言葉で全文読ませる。

キーワード3～5つ 教科書の見開きから、大切だと考えるキーワードを3～5つノートに書く。

③ 板書 わからない子も板書を見てキーワードを見つけることができる。

④ キーワードを説明 ノートを持ってこさせチェックする。キーワードを教科書の言葉を使って1～2行で説明する。

⑤ グラフを選ぶー一番大事だと思ったグラフを教科書の中から選ぶ。

⑥ 直写させる 図がトレーシングペーパーより大きかったら図の一部をうつさせる。(トリーミング)

⑦ 色を塗る 色を塗って、ノートに貼る

⑧ 絵についての説明を書く。その絵について自分の言葉で説明を書く「どんな絵ですか」

⑨ 一言でまとめる さっき選んだ3つのキーワードを入れて説明文を書く。

⑩ 二回目のノートまとめの指示 この教科書を使って見開き二ページでまとめてもらいます。前やったから覚えてますよね。教えた手順でやっていきなさい。教科書処理の仕方がわかる。自分でどのように学習すればいいかわかる。

★教科書を基本とした授業

社会科にはたくさんの絵や写真が載っている。グラフ資料や図表に比べ数が圧倒的に多い。教科書の絵や写真から授業を始めるときの基本発問を活用する。

①主要発問「この写真を見て「わかったこと」「気がついたこと」「思ったこと」を、ノートに箇条書きにしなさい」分かったことは因果関係がわかるということである。「1つかけたら1年生、2つかけたら2年生、みなさんは5年生だから5つかけたら持ってらっしゃい」

②持ってこさせ、板書させる 「2番がいいな。3番がいい。どれでも好きなのを書きなさい」など、全員持ってこさせていたら收拾がつかないので「今立っている人で終わりです」途中で切る。

④発表させるまだ、書いている人がいても、発表させる。

⑤評定する

⑥発問で写真の見方を教える「場所はどこですか」「どちらの方向ですか」「季節はいつですか」「何時ですか」「何月ですか」「自分と比べてどのような違いがあります」

「この写真を見て、わかったこと、気がついたこと、思ったことを、ノートに箇条書きにしなさい」社会科で「わかる」というのは『社会事象間の因果関係がわかる』ということである。「気づく」というのは『社会事象に気づく』ということである。「思ったこと」というのは、『自分の考え』ということである。まず全体を問うた方が、「本時のねらい」をすぐ問うより、「経験の層」を厚くすることができる。また「気づいたこと」を、必ずしも全員が書く必要はない。

令和6年度 授業改善重点プラン4

算数授業改善

数学的作文力をつける①

算数の時間に作文を書かせます。授業の感想ではありません。「わかっていることは何か」「どうやって解くのか」「なぜそうなるのか」など、数学の仕組みを説明する作文です。数学的作文力です。

全国学力調査の算数B問題は、数学的作文で答える問題ばかりです。本校のこども達の実態から、数学的作文力を身につけさせる授業改善が必要である。そこから、算数の時間に作文をさせる授業を意図的に仕組んでいく。 節目、節目に作文の授業を組み込む。こども達は、少しずつ数学的作文に慣れさせていく。

「数学的作文は、教えれば書けるようになる」 とときどき取り上げ、書かせるのでは、身につかない。日々の算数の授業に少しずつ入れていくことが必要である。少しずつ、無理のないペースで。

数学的作文力をつける②

例 1 四角形の内角の和は、 360°

「三角形の角をしらべよう」に作文作業を組み込む。

こども達に、問う。「三角形の三つの角の和は何度ですか？」 「 180° です」

次の問い「四角形の四つの角の和は、何度ですか？」 「 360° です！」

「正解。なぜ、四角形の四つの角の和は 360° になるのでしょうか。理由をノートに書きなさい」

こども達は、 ノートに書く。「書けた人は、黒板に書きなさい。先着八名様」

「授業の中では、正解かどうかは重要じゃない。黒板に書くことが重要。人前で発言することが重要。それが、さっとできるようになった人は、必ず賢くなります。」

教室は、こども達のやる気が充満していく。

数学的作文力をつける③

教科書で教える説明する算数の授業例

四角形の内角の和は、 360° その2

「四角形の四つの角の和が 360° 」になる理由は、二種類出ました。

① 四角形の4つの角の和は、 360° である。なぜなら、四角形の4つの角を合わせると、円になる。円の中心は 360° である。よって、4つの角の和は、 360° である。

② 四角形の4つの角の和は、 360° である。なぜなら、四角形を対角線で分けると、三角形が二つできる。三角形の3つの角の和は 180° である。よって、 180° と 180° で 360° となる。どちらも、正しいです。

前の時間に、次のような作文を書かせる。

「三角形の3つの角の和は 180° である。なぜなら、3つの角の和を合わせると、直線になる。直線は、 180° である。よって、三角形の3つの角の和は 180° である」

学んだことを活用させる。

黒板に書かれたものから、作文の型をノートに書かせる。四角形の4つの角の和は 360° である。 理由を述べる。 四角形に対角線を引くと、三角形が2つできる。

三角形の3つの角の和は、 180° である。 $180^{\circ} \times 2 = 360^{\circ}$ よって、四角形の4つの角の和は 360° である。

教科書を使った授業やノート指導の仕方

学級開きの授業から、教科書とノートを使って、どの子にも、1つひとつ「できた」という成功体験を積み重ねていく授業を目指す。授業のポイントは、リズム、テンポよくやることである。ほめる。

学習の仕方を教えること。学習の仕方を教える上でのポイントは、以下である。

① 教科書の音読では、追い読みをし、どの子にも声を出させる。② 指で押させさせ、学習しているところを確認する。③ 発表する時、「です」と答えさせる。④ 発表させた後、「同じ人？」ときき、手を挙げさせる。そうすることで、発表できなかった子どもも認めることができる。

⑤ 一時に一事で問う。2つ以上のことをまとめて問うと、子どもが混乱する。⑥ 教科書に書き込みができるときは、ていねいに書かせる。 ノートを机に出させる必要がないので、より授業が安定する。

ノートのポイント

① 日付を書く。 ② ページ数を書く。 ③ ページ数を、赤鉛筆とミニ定規を使って、書く。 ④ 表題（「1 かけ算」など）を書く。 ⑤ 問題番号（□1、①など）を書く。

⑥ +、－、×、＝などの記号は、定規を使う。 ⑦ 文章問題は、式と答えを書く。（必要に応じて、筆算も書く。3点セット）

教科書とノートを使うことで、授業が安定し、どの子にも確実な学力がついていく。 学級開きの授業から、学習の仕方を1つひとつ教え、ほめることで、どの子もできるようになっていき、どの子も自信がついていく。

算数が苦手な子の指導

4つのポイント

1 学級に写してもいい雰囲気をつくる こども達は、「人の考えた意見は真似してはいけない」と思う傾向が高い。「写すことはいけないことだ」という概念を覆すようにする。

指示1：「分からなければ黒板を写しなさい。写すのも大事な勉強です。分からなくても、不思議と 写してちゃんとやっていたら、算数ができるようになるのです。一番いけないのは、何もしないことです」

大事なことなので、何度も何度も繰り返す。「写すことは1つの学習方法である」という認識を定着させる。

このことによって勉強が苦手な子でも周りの視線を気にすることなく堂々と写すことができるようにする

2 答えが黒板に書いてあるようにする

算数が苦手な子に「自分で考えなさい」と言っても、かなり難しかしいきない。黒板に答えが書いてあれば、それを写すことができる。

たとえば、練習問題が4問あったとする。早くできた子から黒板に書かせる。計算が速い子は、すぐにできるので、黒板にはすぐにずらっと答えが並ぶ。

あとは、全体で丸付けをし、そして、詰めとして全員に読ませていく。

丸付けと、言わせることは、全員のためでもあるし、苦手な子に時間を保障していることになる。

また、早く終わった子の空白時間を無くしていることにもなっている。もし、早く終わった子達に、何もさせていなかったら、騒然となる

3 赤鉛筆で答えをリードする

問題を写させるといっても、黒板にずらっと答えを書かない場面もある。単元終りの練習問題、プリントなどである。

こういうときには、赤鉛筆を活用する。机間巡視しながら、ずっと苦手な子に寄り添い、赤筆で薄く書く。全部書くというよりは、答えの直前までをリードするイメージ。

たとえば、分数÷分数の計算は、解くまでに粗く言って4つのステップがある。

(1) 分数×逆数にする (2) 一つの式に変換する (3) 約分する (4) 計算して答えを出す

詳しく言えば、さらに (3) は①見つける、②÷数を立てる、③分母と分子を割る、という3つのステップに分解される。

躓くのは (1) (3) の①、②、③であった。分数×分数の計算と混同して、混乱していた。A君は、かけられる数を逆数にしたり、かける数を逆数にしなかったりしていた。

また、約分に関しては全くといっていいぐらいできない。

このときには、(1) のステップを口頭で指示した。「かけ算にして、ひっくり返すんだよ。」だけをノートに書くようにする。

さらに (3) の約分では、赤鉛筆で写す約分する数に斜線を引き (①のステップ)、÷2 (②のステップ) と横に書く。そうすることで③のステップは自力でできた。

このように躓いている箇所を見抜き、そこだけを赤鉛筆で補助する形をとっていく。

4 励まし続ける

分からない問題に対して委縮している感じもある。これまでできないことの繰り返しの結果である。

苦手な子には励ますこと。問題も最後になることが多く、「よく最後までがんばったね。えらいなあ最後までやったんだから」など声をかける。

できない子ができるようになった喜び・成功体験を数多く経験させることが、自己有用感につながっていく。